

平成25年7月11日(木)  
利根川水系渇水対策連絡協議会  
(事務局：関東地方整備局)

記者発表資料

平成25年度  
第3回利根川水系渇水対策連絡協議会  
幹事会(臨時)の開催結果について

1. 開催状況

日時：平成25年7月11日(木) 11:00～

場所：さいたま新都心合同庁舎2号館 5階 共用大会議室501

協議会構成：国土交通省関東地方整備局、経済産業省関東経済産業局、  
農林水産省関東農政局、東京都、千葉県、埼玉県、茨城県、  
群馬県、栃木県、独立行政法人水資源機構

協議会の目的：利根川水系の渇水時における円滑な水需給の調整を図る。

2. 開催結果

別紙の通り

発表記者クラブ

埼玉県政記者クラブ、竹芝記者クラブ、神奈川建設記者会、  
東京都庁記者クラブ、千葉県政記者会、茨城県政記者クラブ、  
栃木県政記者クラブ、刀水クラブ

問い合わせ先

国土交通省 関東地方整備局 河川部水政課	住所 〒330-9724 埼玉県さいたま市中央区新都心2-1 さいたま新都心合同庁舎2号館
水政調整官 小池 勇 (内線) 3515	
水政課長 澤田 晋 (内線) 3551	
建設専門官 一條 勝志 (内線) 3557	
河川部河川環境課	電話 (代表) 048-601-3151
河川環境課長 徳道 修二 (内線) 3651	
建設専門官 榎澤 義一 (内線) 3652	

## 現状と今後の対応

### (1) 現状

- ・降水量（栗橋上流域平均）の状況
  - 5月の累加降水量は46mm（平年の38%、昭和23年以降最も少ない値）
  - 6月の累加降水量は168mm（平年の96%）
  - 7月は9日までの累加で23mm（7月の累加降水量の平均は200mm）
- ・利根川上流8ダムの貯水状況（7月10日0時現在）
  - 貯水量は2億3,022万 $m^3$ 、貯水率67%、平年比で74%
  - なお、貯水量は、過去22年間（奈良俣ダムが運用を開始した平成4年以降）の同日の値と比べて、最も少なくなっています。

### (2) 今後の見通し

- ・関東地方では7月6日頃に梅雨が明けたこともあり、まとまった降雨がない状況が続く可能性がある。
- ・農業用水や都市用水の水利用が、夏場の需要期を迎え、河川からの取水量が増加することが予想される。
- ・今後、河川の流量が減少した場合、ダムに貯留した水を農業用水や都市用水等のために補給する量を増加する必要が生じ、ダムの貯水量の減少が加速することが予想される。

### (3) 今後の対応

- ・ダム等の水資源開発施設については、引き続ききめ細かな運用を行っていきます。
- ・関係機関と連携して節水対策等の取り組みを実施するとともに、状況によって機動的な対応を行っていきます。
- ・今後、ダムの貯水量等の状況によっては、早ければ来週改めて、更なる対応について協議します。

## 利根川上流ダム群等の現状と今後の見通しについて



写真：奈良俣ダム  
(撮影日 7月8日)

平成25年7月11日

関東地方整備局

# 1. 利根川上流ダム群等の現況

## 1) 利根川

①今年の春以降の栗橋上流域平均の月毎の累加降水量は、6月が168mm（平年の96%）となっています。（図-1、表-1）

7月は9日までの累加で23mmとなっています。（7月の累加降水量の平均は200mm。）

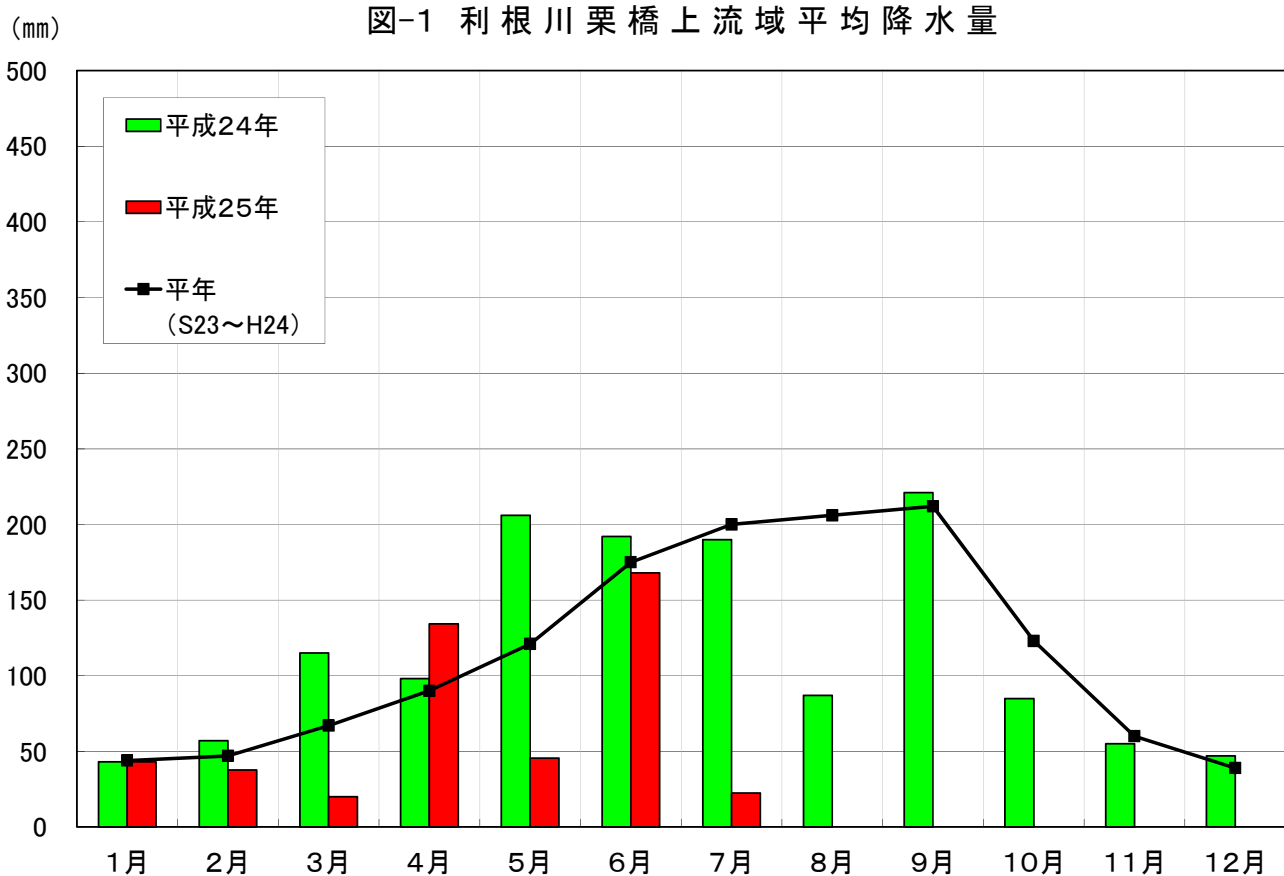


表-1 利根川栗橋上流域平均降水量（平成25年7月9日まで）

単位 (mm)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	摘要
昭和62年	22	33	62	14	89	91	204	186	252	73	39	26	1,091	利根川夏渇水
平成2年	31	66	71	119	58	74	118	193	326	143	183	31	1,413	〃
平成6年	27	50	52	23	139	107	104	153	346	87	26	29	1,143	〃
平成8年	26	35	68	47	98	117	155	78	217	80	55	23	999	利根川冬夏渇水
平成9年	33	33	59	74	179	173	170	167	206	14	94	20	1,222	利根川冬渇水
平成13年	79	35	75	23	136	176	116	366	321	173	46	23	1,569	利根川夏渇水
平成24年	43	57	115	98	206	192	190	87	221	85	55	47	1,395	〃
平年 (S23~H24)	44	47	67	90	121	175	200	206	212	123	60	39	1,383	
平成25年	43	38	20	134	46	168	23						471	
平年比(%)	98	80	30	149	38	96	11						34	

※      利根川取水制限実施月（一時緩和含む）

※ 栗橋上流域面積 8,588km<sup>2</sup>

② 利根川上流8ダムは、降水量の少ない状態が続き、河川の流量が減少したため、5月下旬より都市用水や農業用水の需要を確保するために、ダムに貯留した水を補給しました。6月中旬以降は貯水量がほぼ横ばいに推移しています。(図-2)

7月10日0時の貯水量は2億3,022万m<sup>3</sup>であり、貯水率は67%、平年比で74%となっています。(表-2)

なお、貯水量は、過去22年間(奈良俣ダムが運用を開始した平成4年以降)の同日の値と比べて、最も少なくなっています。

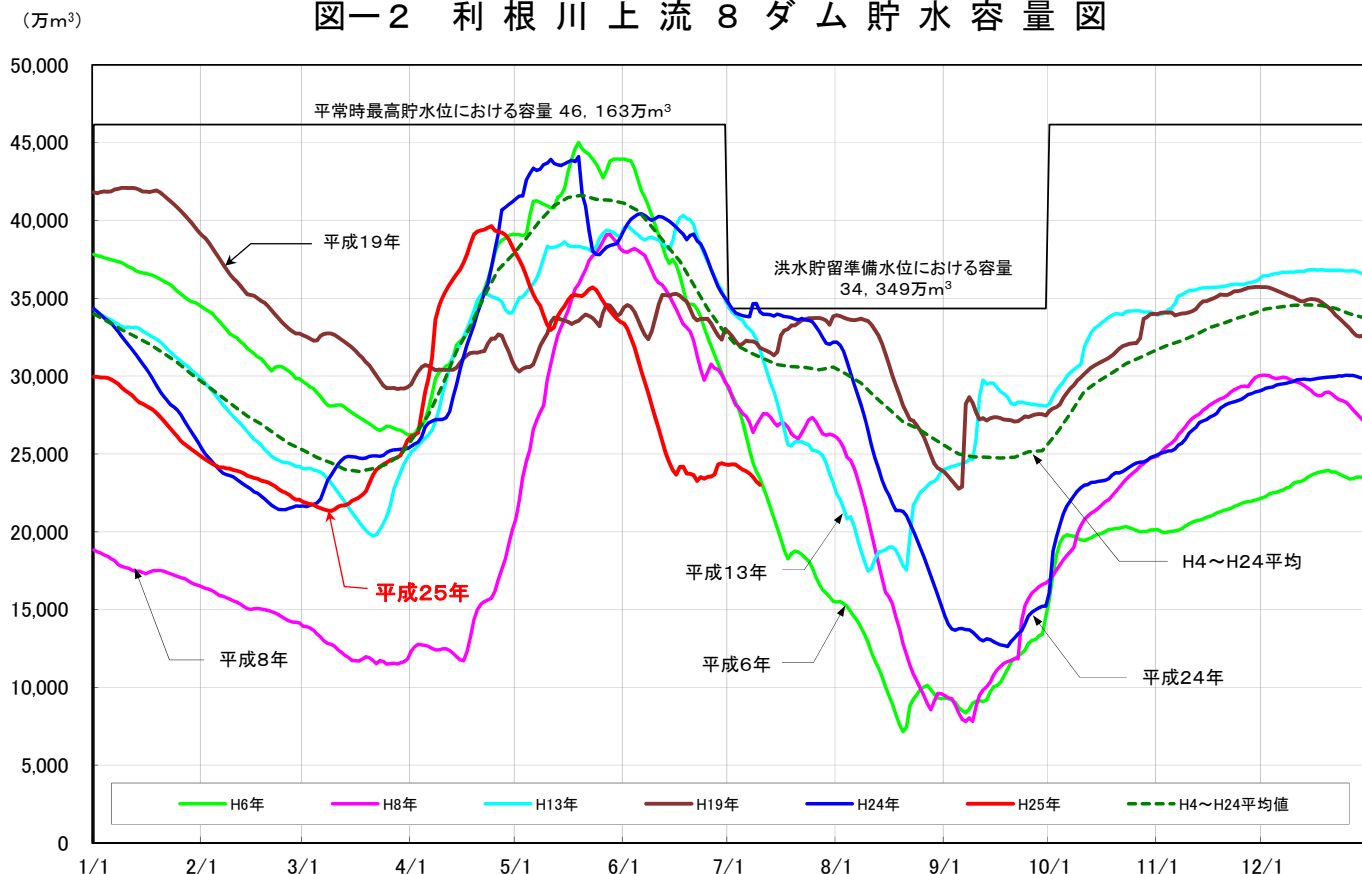
表-2 利根川上流8ダム貯水量

平成25年7月10日0時現在

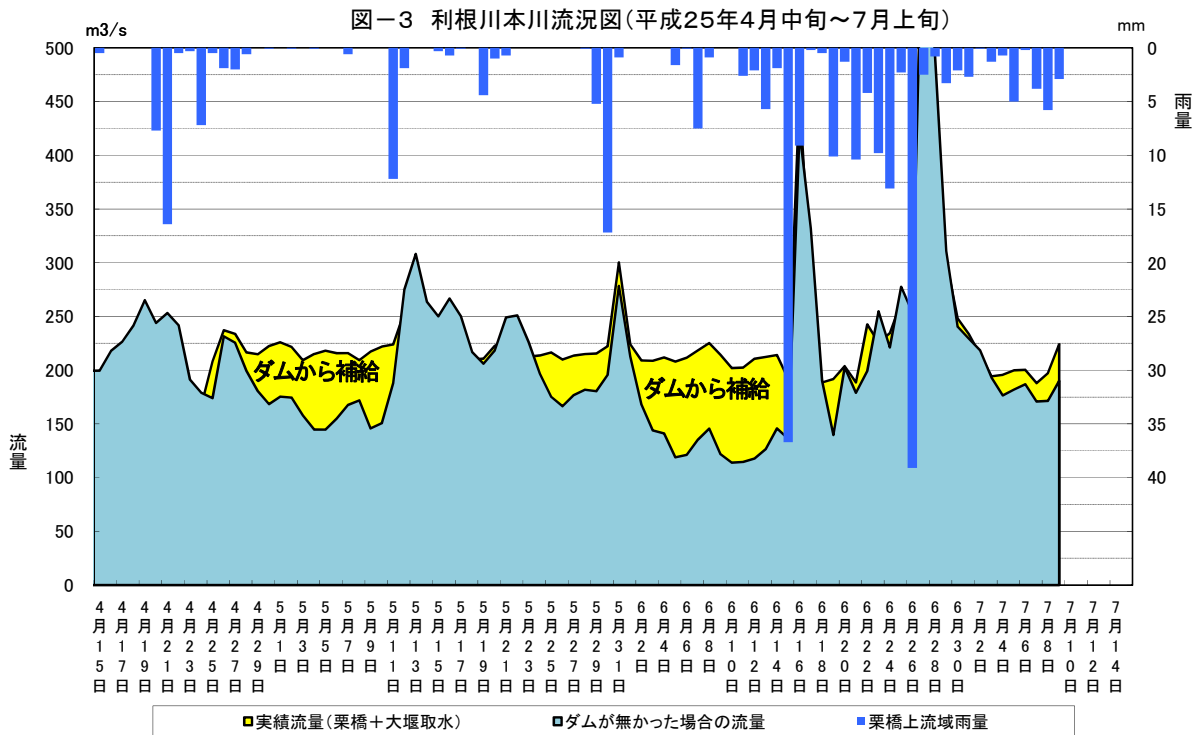
ダム名	有効容量 (万m <sup>3</sup> )	貯水量 (万m <sup>3</sup> )	貯水率 (%)	前日補給量 (万m <sup>3</sup> /日)	平年比 (%)
矢木沢ダム	11,550	6,675	58	121	66
奈良俣ダム	7,200	4,667	65	26	68
藤原ダム	1,469	1,326	90	-11	100
相俣ダム	1,060	736	69	53	80
藪原ダム	300	279	93	7	113
下久保ダム	8,500	5,807	68	39	76
草木ダム	3,050	2,316	76	48	84
渡良瀬貯水池	1,220	1,216	100	-85	104
8ダム合計	34,349	23,022	67	198	74

1. 有効容量は、夏期制限容量。(矢木沢ダム除く)
2. 貯水率は、夏期制限容量に対する貯水量の割合。(矢木沢ダム除く)
3. 前日補給量とは、前日の貯水量と本日の貯水量の差。(プラスの場合はダムの集水区域からダムへ流入してくる水より、ダムから放流する量が多い)

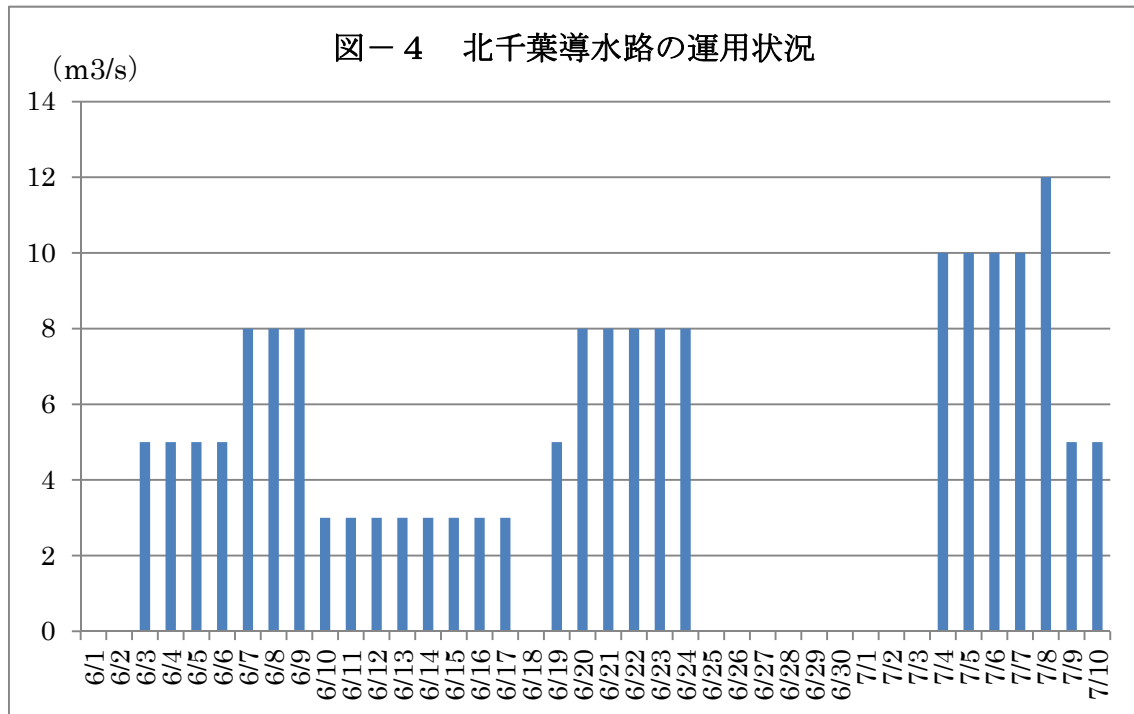
図-2 利根川上流8ダム貯水容量図



平成25年は5月以降、1日当たり最大800万 $m^3$ /日（東京ドーム6.5個分）をダムから補給してきており、利根川の流量（栗橋地点流量+利根大堰での取水量）の最大約4割をダムから補給してきております。（図-3）



③北千葉導水路は6月3日より運用を開始し、7月10日までに最大12 $m^3$ /s、総量約1,377万 $m^3$ （28日間）の導水をしています。（図-4）



## 2) 鬼怒川

①今年の春以降の鬼怒川佐貫上流域平均の月毎の累加降水量は、6月が171mm(平年の96%)となっています。

(表-3、図-5)

7月は9日までの累加で20mmとなっています。(7月の累加降水量の平均は228mm。)

図-5 鬼怒川佐貫上流域平均降水量

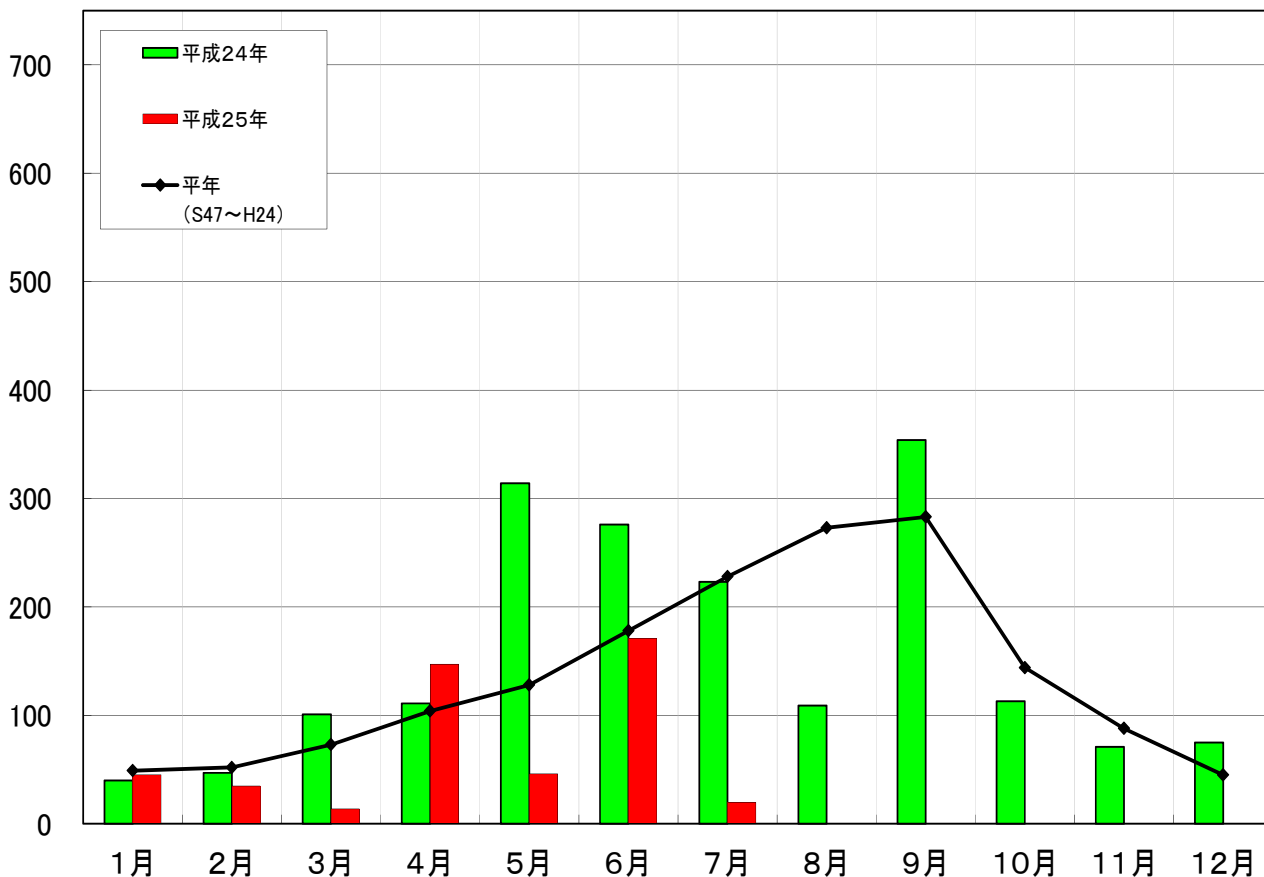


表-3 鬼怒川佐貫上流域平均降水量 (平成25年7月9日まで)

単位：(mm)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	摘要
昭和62年	21	34	127	21	121	134	186	156	321	121	38	21	1,301	
平成2年	35	89	79	164	53	111	109	338	394	195	220	66	1,853	
平成6年	15	118	77	21	126	103	159	218	551	122	25	48	1,583	
平成8年	46	69	79	67	113	103	176	109	211	66	65	36	1,140	
平成9年	46	55	74	52	145	272	234	114	274	17	215	27	1,525	
平成13年	56	13	34	13	116	185	147	484	610	225	62	35	1,980	
平成24年	40	47	101	111	314	276	223	109	354	113	71	75	1,833	
平年(S47~H24)	49	52	73	104	128	178	228	273	283	144	88	45	1,645	
平成25年	45	35	14	147	46	171	20						477	
平年比(%)	92	67	19	141	36	96	9						29	

※. 鬼怒川佐貫上流面積 940km<sup>2</sup>

②鬼怒川上流4ダムは、4月中旬から補給しており、貯水量が低下しています。(図-6)

7月10日0時の貯水量は9,306万m<sup>3</sup>であり、貯水率61%、平年比で98%となっています。(表-4)

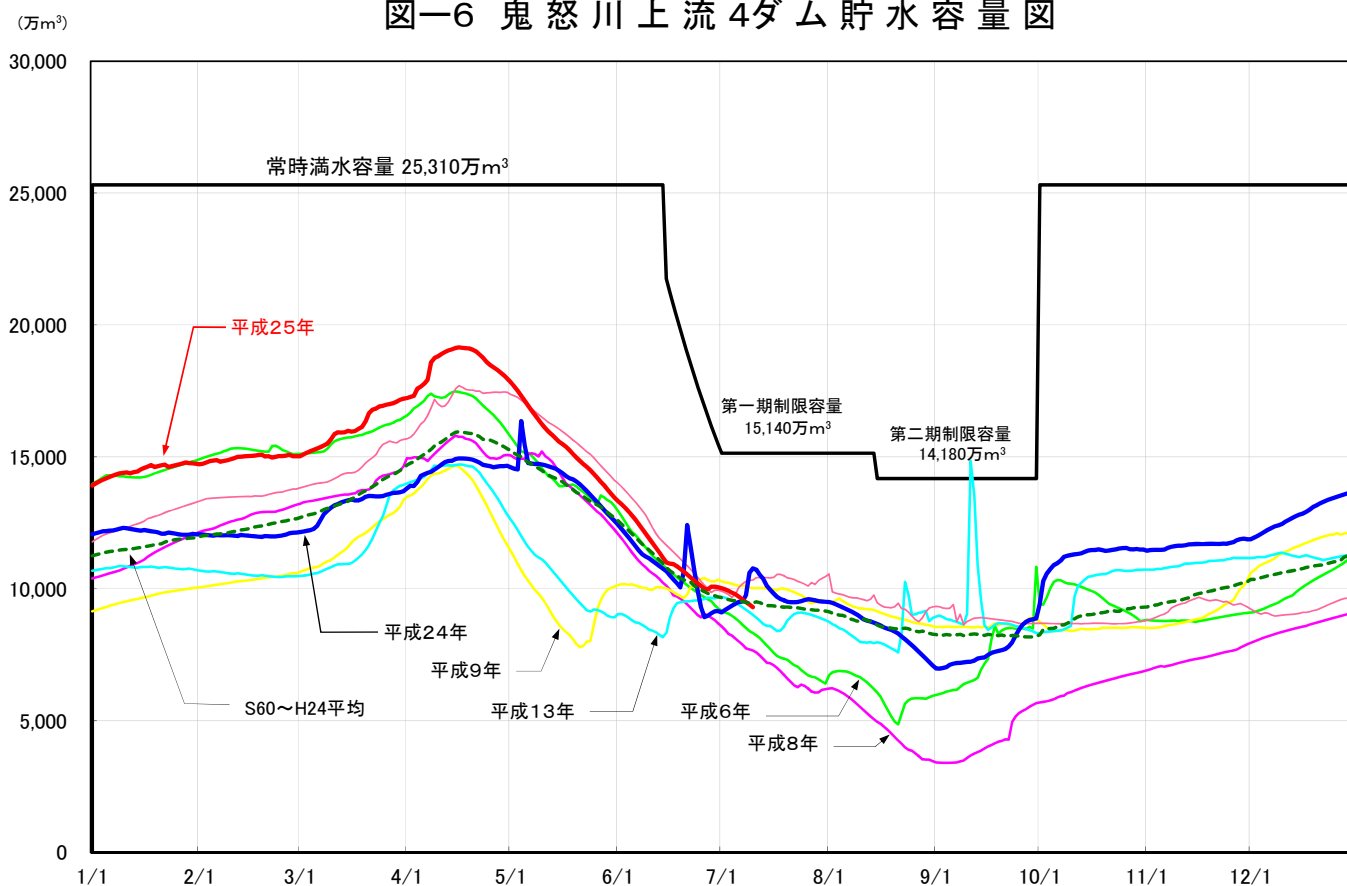
表-4 鬼怒川上流4ダム貯水量

平成25年7月10日0時現在

ダム名	有効容量 (万m <sup>3</sup> )	貯水量 (万m <sup>3</sup> )	貯水率 (%)	前日補給量 (万m <sup>3</sup> /日)	平年比 (%)
五十里ダム	1,650	731	44	37	92
川俣ダム	5,290	2,351	44	37	49
川治ダム	4,000	2,551	64	18	66
湯西川ダム	4,200	3,673	87	12	—
4ダム合計	15,140	9,306	61	104	98

1. 有効容量は、夏期制限容量。
2. 貯水率は、夏期制限容量に対する貯水量の割合。
3. 前日補給量とは、前日の貯水量と本日の貯水量の差。(プラスの場合はダムの集水区域からダムへ流入してくる水より、ダムから放流する量が多い)
4. 平年比は、五十里、川俣、川治の3ダムの平均貯水量に対する割合であり、参考値。

図-6 鬼怒川上流4ダム貯水容量図





### 3) 荒川

①今年の春以降の荒川秋ヶ瀬上流域平均の月毎の累加降水量は、6月が172mm（平年の109%）となっています。（図-7、表-5）

7月は9日までの累加で13mmとなっています（7月の累加降水量の平均は185mm。）。

図-7 荒川秋ヶ瀬上流域平均降水量

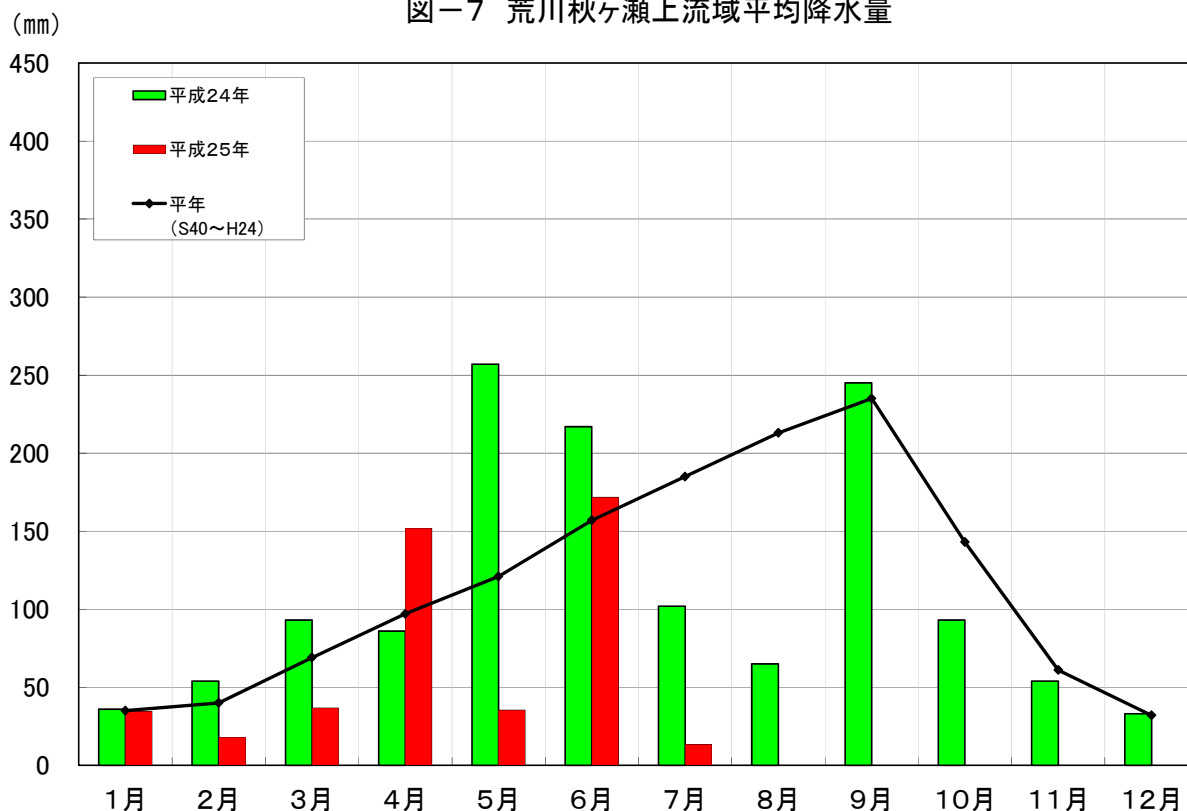


表-5 荒川秋ヶ瀬上流域平均降水量（平成25年7月9日まで）

単位(mm)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	摘要
昭和62年	16	29	66	8	66	88	146	103	280	91	46	36	975	利根川・荒川夏渇水
平成2年	22	67	83	138	48	55	77	228	473	134	301	31	1,657	利根川・荒川夏渇水
平成4年	26	15	118	136	117	250	87	177	63	285	52	29	1,355	荒川夏渇水
平成5年	82	34	37	44	76	186	275	276	204	112	113	25	1,464	荒川夏渇水
平成6年	42	44	64	25	111	103	152	142	344	119	21	24	1,191	利根川・荒川夏渇水
平成7年	24	25	111	44	129	239	177	109	180	73	24	0	1,135	荒川夏渇水
平成8年	1	22	55	62	80	47	204	32	314	74	57	17	965	利根川・荒川冬夏渇水
平成9年	21	13	57	70	187	168	148	72	204	7	87	21	1,055	利根川・荒川冬渇水
平成13年	98	17	98	30	179	120	69	279	444	247	67	9	1,657	利根川夏渇水
平成24年	36	54	93	86	257	217	102	65	245	93	54	33	1,335	利根川夏渇水
平年 (S40-H24)	35	40	69	97	121	157	185	213	235	143	61	32	1,385	
平成25年	35	18	37	152	36	172	13						462	
平年比(%)	99	45	53	157	29	109	7						33	

※ 黄色背景: 荒川取水制限実施月（一時緩和含む）

※ 秋ヶ瀬上流域面積 2,021 km<sup>2</sup>

②荒川上流4ダムは、5月中旬から補給しており、貯水量が低下しています。(図-8)

7月10日0時の貯水量は7,831万m<sup>3</sup>であり、貯水率99%、平年比で148%となっています。(表-6)

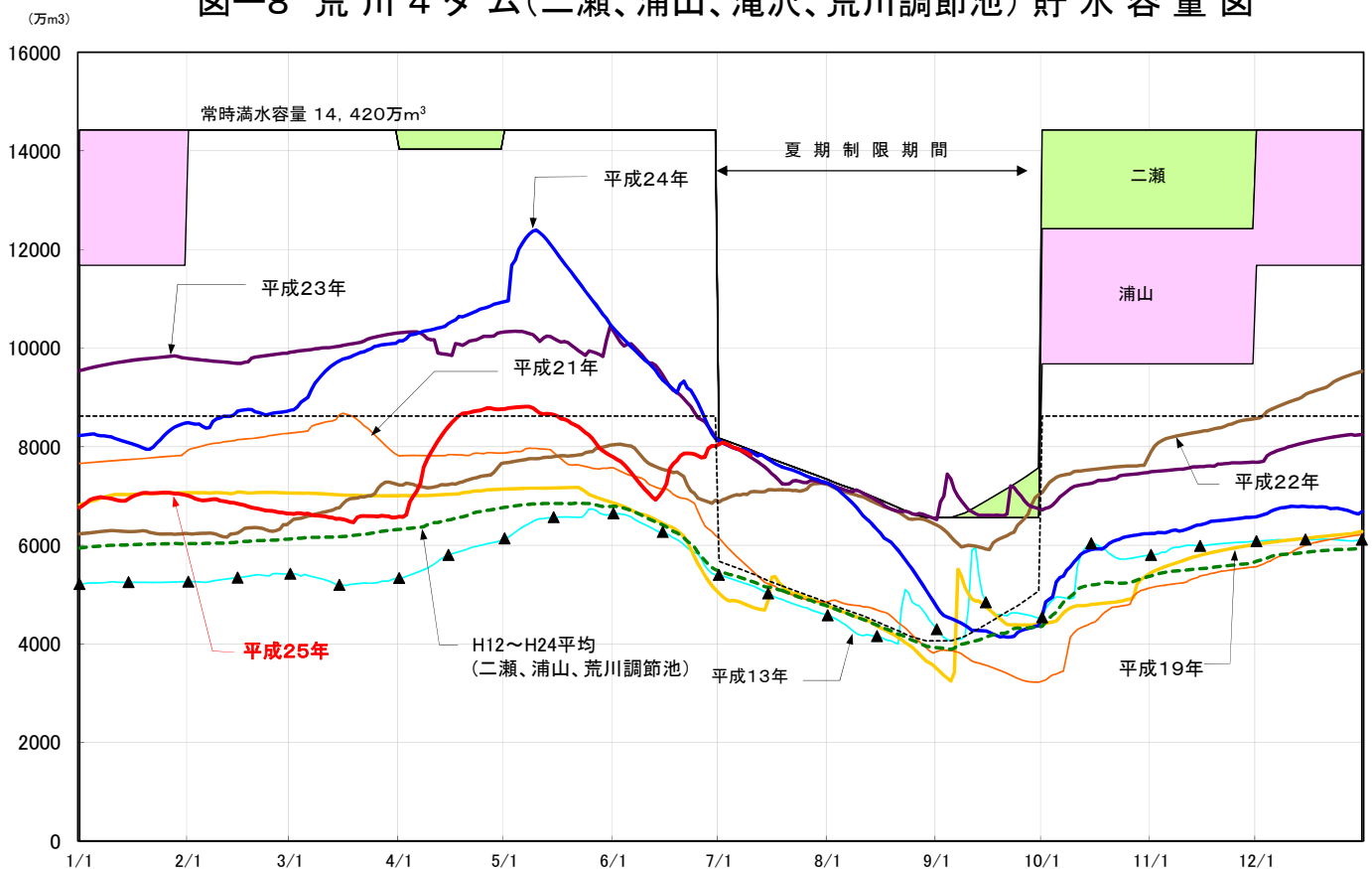
表-6 荒川4ダム貯水量

平成25年 7月10日0時現在

ダム名	有効容量 (万m <sup>3</sup> )	貯水量 (万m <sup>3</sup> )	貯水率 (%)	前日補給量 (万m <sup>3</sup> /日)	平年比 (%)
二瀬ダム	1,377	1,384	101	29	107
滝沢ダム	2,500	2,433	97	16	—
浦山ダム	3,300	3,275	99	-3	101
荒川貯水池	760	739	97	1	99
4ダム合計	7,937	7,831	99	43	148

1. 有効容量は、夏期制限容量。
2. 貯水率は、夏期制限容量に対する貯水量の割合。
3. 前日補給量とは、前日の貯水量と本日の貯水量の差。(プラスの場合はダムの集水区域からダムへ流入してくる水より、ダムから放流する量が多い)
4. 4ダム合計の平年比は、二瀬ダム、浦山ダム、荒川貯水池の平年貯水量の合計に対する割合であり、参考値。

図-8 荒川4ダム(二瀬、浦山、滝沢、荒川調節池)貯水容量図



#### 4) 多摩川水系

①今年の春以降の小河内ダム上流域平均の月毎の累加降水量は、6月が186mm（平年の103%）となっています。（表-7、図-9）

7月は9日までの累加で4mmとなっています。（7月の累加降水量の平均は212mm。）

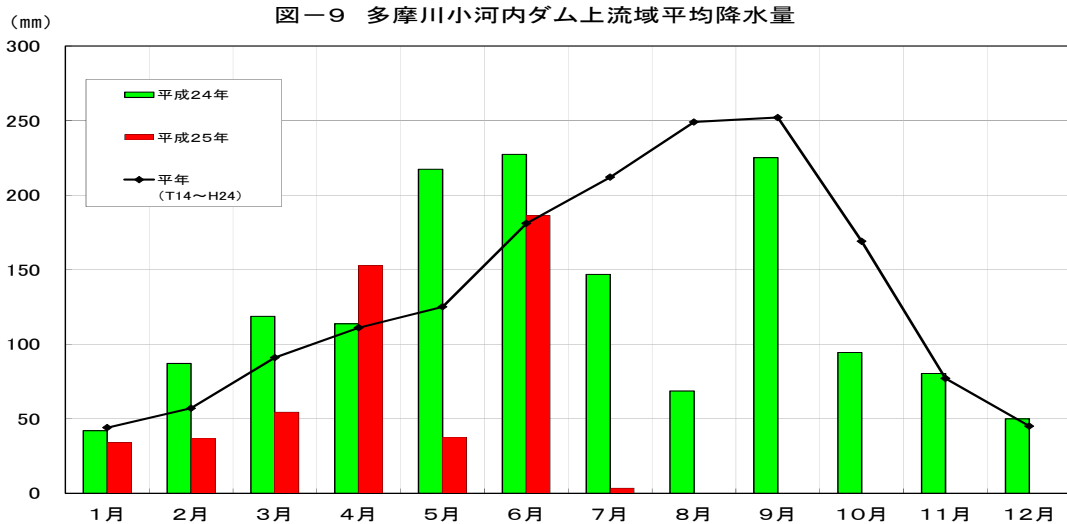
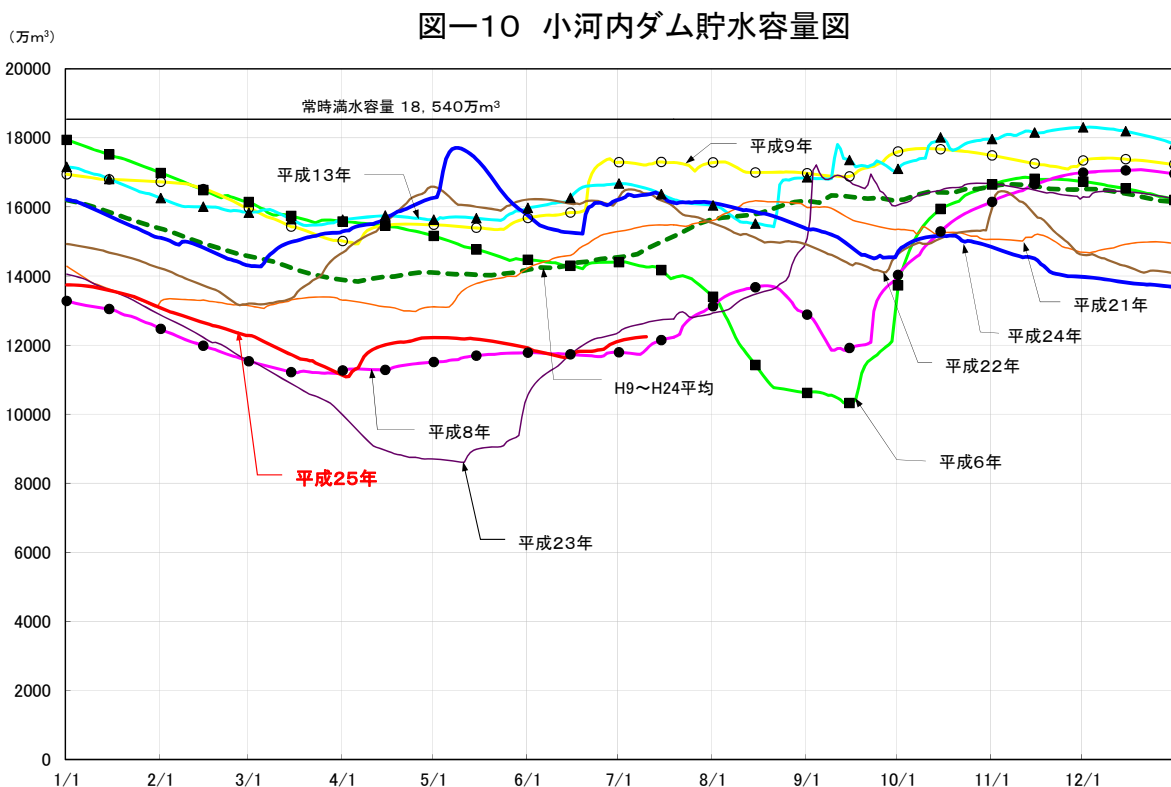


表-7 多摩川小河内ダム上流域平均降水量（平成25年7月9日まで）

単位：(mm)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	摘要
平成24年	42	87	119	114	217	227	147	69	225	94	80	50	1,471	
平年(T14~H24)	44	57	91	111	125	181	212	249	252	169	77	45	1,613	
平成25年	34	37	55	153	38	186	4						505	
平年比(%)	78	64	60	137	30	103	2						-	

②小河内ダムの貯水量は、7月10日現在で、1億2,243万m<sup>3</sup>となっています。（図-10）



## 2. 今後の見通し

### (1) 見通し

- ①平成25年7月5日気象庁発表の1か月予報によると、7月6日から8月5日の関東甲信地方の降水量については、「**平年並み**」となっており、6月25日発表の気象庁の3か月予報によると、降水量は、7月が「**平年並み**」となっています。

#### 1か月予報（平成25年7月5日発表）



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

#### 3か月予報（平成25年6月25日発表）

##### 【降 水 量】

[関東甲信地方]



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

- ②平成25年7月2日気象庁発表の「**高温に関する異常天候早期警戒情報（関東甲信地方）**」によると、7月7日頃からの約1週間は、気温が平年よりかなり高くなる確率が30%以上となっており、水需要の増加が予想されます。

#### 要早期警戒

警戒期間 **7月7日頃からの約1週間**

対象地域 **関東甲信地方**

警戒事項 **かなりの高温（7日平均地域平年差+2.6℃以上）**

確 率 **30%以上**

今回の検討対象期間（7月7日から7月16日まで）において、関東甲信地方では、7月7日頃からの1週間は、気温が平年よりかなり高くなる確率が30%以上となっています。

農作物の管理に注意してください。また、急激な気温上昇の際は、熱中症にかかりやすくなります。体調に配慮しつつ、気温上昇の前に汗をかく機会を増やすなど暑さに慣れる取り組みを行ったり、屋外での活動等では飲料水や日陰を十分に確保したりするなど、事前の熱中症対策を進め、健康管理に注意してください。